

第4回松戸市公共施設再編整備推進審議会 議事録

日時：平成28年6月7日（火）14：00～15：30

場所：松戸市役所別館地下1階研修室

出席：柳澤委員（会長）、藤村委員（副会長）、小川委員、池澤委員

欠席：原田委員

○ 議事

- (1) 前回の議事の確認
- (2) 今年度のスケジュールについて
- (3) 今年度策定予定の各種計画について
- (4) その他

(2) 今年度のスケジュールについて

事務局より、平成28年度スケジュール表に基づき、今年度のスケジュールについて説明。

<主な意見>

- ・ 全体計画、モデル地域計画、個別プロジェクトと3段階あるなかで、全体計画は学校再配置がメインとなると考えられ、教育委員会と連携していく必要がある。
- ・ 学校の再配置は、全地域に同じルールを適用すればよいというわけではないと考えられる。例えば、人口が減少するエリアでは、施設をできる限り残し、人口が維持されるエリアでは、統廃合していくなど、地域の状況に合わせて検討していくべきである。
- ・ 地域の成り立ちや特性を加味するなかで、災害時の対応なども議論していく必要がある。
- ・ 全体計画から個別プロジェクトまで、市民がわかりやすいように情報開示、情報共有しながら、検討を進めていくべきである。

(3) 今年度策定予定の各種計画について

事務局より、総合管理計画、モデル地域ビジョン・ブック、東松戸まちづくり用地活用基本構想それぞれの目次案を説明。モデル地域計画として、小金原、新松戸、東部の3地区で進めていく旨説明。審議会に10月以降参画予定の東大村山准教授より立地適正化計画を見据えて、都市計画課と連携する必要があると意見があった旨説明。

<主な意見>

- 立地適正化計画と総合管理計画の一致が一番の重要課題。計画の実効性については、立地適正化計画のなかで議論していき、関係主体と合意形成がなされれば、個別のプロジェクトに展開していけばよい。
- モデル地域ビジョン・ブックは地域別の各論にもっと重点をおくべきだが、地域主義で、ボトムアップで進めていく姿勢は、市の取り組むメッセージとしてわかりやすい。
- 総合管理計画等の公式の計画とモデル地域ビジョン・ブックなどの非公式の計画、両方で進めていくのはよい。
- モデル地域ビジョン・ブックはやや総花的な印象を受ける。具体の施設に絞って、施設単体の検討を通して、エリア全体の議論をして進めていった方がよいのではないか。
- モデル地域ビジョン・ブックでは、「計画」という言葉はできる限り使わない方が、より公式の計画と差別化され、性格がはっきりする。
- 実際の市民の声をより反映できるような検討のプロセスで進めるべきである。
- 東松戸まちづくり用地活用基本構想については、提案の十分項目になっているまちづくりや設計のプロセスに関する提案も必要条件に入れるべきである。

(以上)